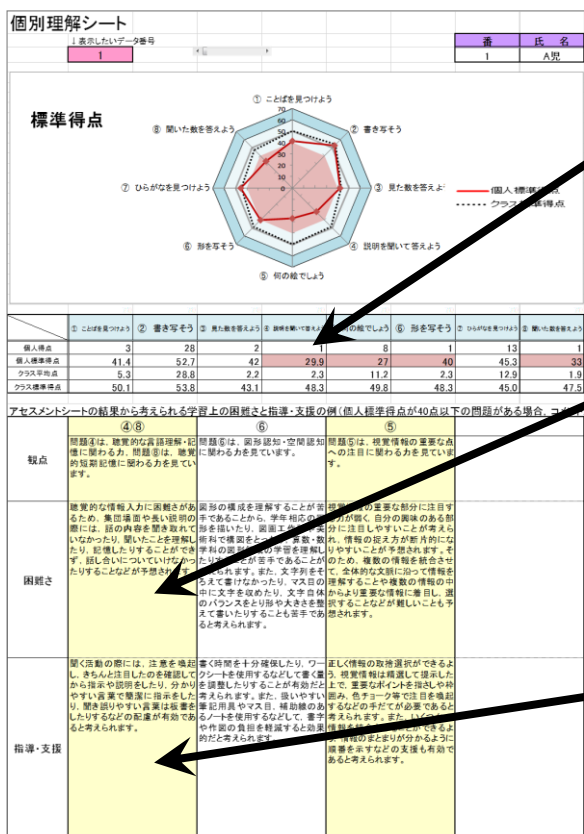


気になる子供の実態把握について～アセスメントシート分析パッケージの活用～

当センター特別支援教育部では、平成 27 年度に複数の観点を関連付けて子供たちの学習上の困難を把握し、それに対応した指導・支援の方法を一括して提供する「アセスメントシート分析パッケージ」(以下、「分析パッケージ」という。)を開発しました。その中から、今回は「個別理解シート」を紹介します。

○「個別理解シート」 標準得点が 40 点以下の観点があった場合、推測される学習上の困難さとそれに対応する指導・支援の内容を「個別理解シート」(図 1) のコメント欄に自動表示するようにしました。



左図の「個別理解シート」は、問題④と問題⑧の標準得点が 40 点以下で、配慮を要するという意味の赤色表示がなされています。

問題④と問題⑧の観点を関連付けた推測される学習上の困難さが記述されています。
 記述内容：「聴覚的な情報入力に困難さがあるため、集団場面や長い説明の際には、話の内容を聞き取れていなかったり、聞いたことを理解したり、記憶したりすることができず、話合いについていけなかったりすることなどが予想されます。」

推測される学習上の困難さに対応する指導・支援の例が記述されています。
 記述内容：「聞く活動の際には、注意を喚起し、きちんと注目したのを確認してから指示や説明をしたり、分かりやすい言葉で簡潔に指示をしたり、聞き誤りやすい言葉は板書をしたりするなどの配慮が有効であると考えられます。」

図 1 「個別理解シート」

通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりを進めるに当たって、様々な認知特性を示す子供たちの的確な実態把握ツールとして、ぜひ分析パッケージを活用してください。ただし、子供の実態把握をする際には、分析パッケージによる実態把握とともに、これまで通り教員による授業の行動観察を併せて検討し、総合的に実態把握をすることが必要です。その点に留意して、活用するようお願いいたします。

また、昨年度は、特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりを行う際に、分析パッケージを活用した実態把握の手順について解説した「手順編」と、実態把握に基づいた小学校と中学校の指導・支援の実際を紹介した「実践編」で構成したブックレット(図 2)を作成しました。こちらも併せて活用してください。

8 月 9 日(水)に実施する「通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり基礎研修講座」では、ブックレットで紹介した小学校と中学校の実践発表があります。ぜひ御参加ください。

なお、分析パッケージの活用を希望する学校には送付しますので、当センター特別支援教育部まで御連絡ください。【電話番号 0866-56-9106】



図 2 「ブックレット」

(担当・特別支援教育部)